

1 題 材 おいしいね 毎日の食事

2 情報の交流を行う場面

家族の笑顔を求めたビデオレター作りの場面で、デジタルカメラ（以下、デジカメ）で撮影したビデオを友達と確認し、自分の思いと友達の助言を照らし合わせ撮影し直す。

3 情報の交流により期待される効果

友達の助言を取り入れ、家族の笑顔を求めた調理計画やビデオレターに近付くことができる。

4 指導計画（家庭科 10 時間・総合的な学習の時間 8 時間完了）

- | | | |
|---------------|-------|--------------|
| (1) 課題を立てる | | 2 時間 |
| (2) 調理計画を立てる | | 3 時間 |
| (3) 調理実習に取り組む | | 3 時間 |
| (4) 調理計画を改善する | | 2 時間 |
| (5) 自分の思いを伝える | | 5 時間（本時 3/5） |
| (6) 家で調理する | | 3 時間 |

5 本時の指導

(1) 目標

- 毎日の食事を振り返り、栄養のバランスがとれたよりよい食生活を目指そうとする。
- 家族の笑顔を求めたビデオレターを制作することができる。

(2) 準備

教師:ワークシート 電子黒板セット デジタルカメラ

(3) 指導過程

時間配分	学習活動	指導上の留意点	評価の観点と方法
5 分	1 本時の課題を確認する。	○ 家族の笑顔を求めて調理する自分の思いをビデオレターに込めて家族に伝えることを再確認する。	
12分	2 デジタルカメを使って撮影する。	○ 撮影を補助する友達と話し合いながら、撮影を進めていくようにする。	
10分	3 撮影したビデオを見合い、助言する。	○ デジタルカメラの再生機能を使い、撮影したビデオを繰り返し見て、家族に自分の思いが伝わるビデオになったかを確認し、助言する。	○ 家族の笑顔を求めた助言ができているか、ワークシートの記述内容からつかむ。
15分	4 友達の助言を参考に撮影し直す。	○ 友達の助言を全て受け入れるのではなく、自分の思いを家族に伝える上で有効な助言だけを取り入れるようにする。	○ 家族の笑顔を求めたビデオレターになっているか、ビデオの内容からつかむ。
3 分	5 本時のまとめをする。	○ 調理計画の根底にある子どもの家族への思いがビデオレターに込められているかを自己評価で確認させる。	

6 実践の様子

デジタルカメラの動画撮影機能を使い、自分の家族への思いが伝わる映像を撮影した。

家族に自分の思いが伝わるように、作成した提示物を見せたり、電子黒板を使って自分の思いが込められている部分だけを映し出したりして、映像に収めた。(資料①) また、カメラワークも「この場面で必ずズームだよ」「全身より、顔の表情をアップして撮ってね」と、友達と打ち合わせをしている姿が見られた。

撮影した映像が、家族に対する自分の思いを伝えるものになったかを、デジタルカメラの再生機能を使い友達と見合った。(資料②) 「もっと表情を明るく」「提示するものが多過ぎ」「早口は気持ちが伝わらないよ」と、友達から助言をもらい、再びビデオを撮り直した。そしてまた友達と見合い、撮り直す…。この繰り返しによって、家族への思いが伝わるビデオ(DVD)に仕上げた。



資料① ビデオレターづくりに取り組む子どもたち



資料② 撮影したビデオを見合う子どもたち

7 成果と課題

- デジタルカメラの再生機能により、撮った映像をすぐに確認し、何度も繰り返して見られることで、ビデオの改善点を見出すことができ、子どもたちの意見交換を活発にさせ、修正を加えることができた。
- 本実践は、ビデオの修正の活動が取り直しをするだけに留まっている。今後は、デジタルカメラで撮影したビデオを編集する活動に取り組みたい。ビデオを編集することで、子どもの思いを明確にしたり、さらに高めたりすることができる。これが友達の助言の幅を広げることにつながり、情報の交流を促すことができると考える。